

科目名称:	教育相談	
担当者名:	米川祥子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	1
授業の目的・テーマ		
<p>発達を理解した上での子どもへの援助のあり方や、保護者への対応を踏まえた子育て支援について理解できるとともに、基礎的な相談技術（ピアヘルピングや子ども・保護者・保育者それぞれの立場で理解しようとする姿勢）を身につけることができる。また、教育相談活動と専門家との連携について理解する。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>幼児への発達支援や保護者への対応、専門家との連携について学びながら、子どもや保護者など他者の心情理解を深める。さらに、幼稚園教諭・保育者にとって必要な相談援助の方法について、カウンセリングの基礎的理論と技法を学ぶ。</p>		

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	○
DP(3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)					0
全学DP(2)	60		20	20	100
全学DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 臨床心理士（幼児相談） 公認心理師	《経験年数1》 18年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
理解度	保育における相談の意義を理解し、相談技術を身につけることができている。	保育における相談の意義や技術を理解できている。	相談技術を理解できている。	相談とは何か理解できていない。
授業態度	グループワークや演習において積極的に参加し、相談を受ける者としての態度を身につけることができている。	グループワークや演習に積極的に参加している。	グループワークや演習に参加した。	グループワークや演習に参加できなかった。
省察力	相談を受ける者として、自分を見つめようとする姿勢を身につけている。	自分を見つめる演習や授業のふり返りに積極的に参加できている。	自分を見つめる演習や授業のふり返りに参加した。	自分を見つめる演習や授業のふり返りに参加できなかった。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 出会いについて「印象形成」(ロールプレイ含む)	シラバスを読んでおく	10分
第2回 保育者の行う教育相談の考え方～教育相談とは何か	出会いについて「印象形成」復習しておく	10分
第3回 保育者の行う教育相談の特徴・意義について	教育相談とは何かを復習しておく	10分
第4回 保育者の行う教育相談～アセスメント	保育者の行う教育相談の特徴・意義について復習しておく	10分
第5回 保育者の行う教育相談～信頼関係作り(グループワーク含む)	保育者の行う教育相談～アセスメントについて復習しておく	10分
第6回 保育者の行う教育相談～問題の把握、問題の解決	保育者の行う教育相談～信頼関係作りについて復習しておく	10分
第7回 教育相談におけるカウンセリング技法の理論と演習	保育者の行う教育相談～問題の把握、問題の解決について復習しておく	10分
第8回 保護者理解と対応	教育相談におけるカウンセリング技法について復習しておく	10分
第9回 子ども理解・保護者理解と援助のあり方(ロールプレイを通して)	保護者理解と対応について復習しておく	10分
第10回 地域の子育て支援施設を知る	子ども理解・保護者理解と援助のあり方について復習しておく	10分
第11回 保育ソーシャルワーク(専門家(社会的リソース)との連携)	自分の地域の子育て支援施設について調べる	30分
第12回 他者援助を行う者としての心がまえ(自己受容)	教科書指定ページを読んでおく	10分
第13回 他者援助を行う者としての心がまえ(共感力)(グループワークを含む)	教科書指定ページを読んでおく	10分
第14回 他者援助を行う者としての心がまえ(省察的実践家としての保育者)(グループワークを含む)	教科書指定ページを読んでおく	10分
第15回 ふり返り(レポート作成)	これまでの授業内容ふり返り	10分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
 授業積極的関与(20%) 提出物(20%)

課題に対するフィードバック

各課題に対して、その都度コメントシートでフィードバックする。
 最終課題は、希望者には返却する。

教科書・参考書

テキスト
 「ピアヘルパーハンドブック」(日本教育カウンセラー協会編著、図書文化)毎回の授業で使用する
 参考書・参考資料等
 「教師のための初等教育相談」(西本絹子著、萌文書林)